

視 察 報 告 書

都市建設常任委員会

2015年11月10日

小田桐たかし

■日時：2015年11月4～6日

■視察場所：北海道江別市、北広島市、恵庭市

■報告

●江別市市民参加の公園づくり

比較表(H27.3.31)		流山市		江別市		
種類	種別	箇所数	面積(m ²)	箇所数	面積(ha)	
基幹公園	住区基幹公園	街区公園	256	279,005.13	181	33.66
		近隣公園	5	96,186.30	13	29.00
		地区公園	1	55,337.54	3	24.40
		小計	262	430,528.97	197	87.06
	都市基幹公園	運動公園	1	150,349.70	2	24.40
		小計	1	150,349.70	2	24.40
特殊公園	風致公園	3	39,395.00	—	—	
	歴史公園	2	9,635.88	—	—	
	小計	5	49,030.88	8	4.60	
広域大規模公園		—	—	1	64.10	
公園計		268	629,909.55	207	180.16	
都市緑地		56	262,984.28	20	14.91	
緑道		—	—	3	3.56	
緑地小計		56	262,984.28	23	18.47	
都市公園計		324	892,893.83	231	198.63	
人口1人当たりの公園面積(m ² /人)		172,688	5.17		16.60	

『公園』は地域の憩いの場であると同時に、子どもの遊び場、ご近所の井戸端会議の場、地域のお祭りなど様々な要素が詰まっている。更には、子ども時代に遊んだ公園は、大人になって故郷に帰ってきた際に、懐かしさや楽しさを思い出す場、情操

教育の場所でもあると考える。

一方で、子どもの声が苦情の対象となり、公園の噴水を止めるなどの事例もある。また高齢化し、遊具の撤去依頼もあるとお聞きしている。また行政側も、維持費削減を最優先するあまり、変更・更新した遊具が子どものニーズに合わず、子どもが遊ばなくなったケースもある。

そんな中で、地域にある公園に対し、地域の小学校の児童や自治会などが世代を超えて公園のリニューアルに関わっている江別市の25年の取組みは、以下のような効果が生まれると思われた。

①遊具のリニューアルを具体的に使う子どもたちが、予算の範囲内で選択できることは、完成までのワクワク感を高めると同時に、身近な金銭感覚につながる。

- ②完成までの“モノ作り”に関わることで、勤労意識を高め、モノを大事に使う心、自分たちがかかわって作ったという自信を高める。
- ③帰省した際に、懐かしさや、友人のことを思い出すなどふるさとの思い出になる。
- ④自治会などは公園に立ち寄る機会を増やし、子どもと一緒に話し合う機会は登下校や公園で顔見知りを増やし、人生のハリをうむ。
- ⑤リニューアルする対象条件に『一時避難場所』を入れることで、トイレや釜戸ベンチ、収納ベンチなども一体整備でき、防災意識を高め、防災訓練の拠点づくりができる。

江別市では、市民参加でリニューアルする公園の対象条件としている2500㎡としており、本市内ではわずかで地区も偏りがあることから、各自治会の各拠点公園1箇所について、リニューアルする際に住民参加を取り入れることも検討できると思われる。ただし、事務量の増大、江別市のように案を練り上げるまでの6回のワークショップ開催を進めるコーディネーター委託費等も念頭に入れて取り組む必要もあり、費用対効果で十分な検証が必要と思われる。

●北広島市エルフィンロード（サイクリングロード）

鉄道の廃路線を活かしたサイクリングロード整備事業を、北海道と北広島市を含む3市が共同して進めている。北広島市では、それに加え、地域がほぼすべて区画整理により都市計画道路を整備してきた街づくりを活かし、市内にもサイクリングロードを循環させる取り組みをしている。また、景観の良さ＋サイクリング、鉄道ファン＋サイクリング、駅伝やロードレースにコース併用するなど、サイクリングロードが持つ“強み”を最大限引き出している。サイクリングコースは、一自治体の取り組みで、流行や単発的に終わってしまうケースも多いが、近隣自治体が一体で取り組んでいる“強み”も発揮されている。

本市では、議会での指摘・提案を受け、都市計画道路3・1・1号線が当初計画幅員40mから27mへ縮小させ、市野谷の森のアンダーパス計画及び3・2・25号都市軸道路との交差、向小金や野田市への延長計画も中止した経緯の中で、八木南小学校からおおたかの森小中学校までの都市計画道路3・1・1号線に今後、サイクリングロードも付随させ整備する予定（H34年度末）である。

将来的には、江戸川土手のサイクリングロードへの接続、さらに旧本町や利根運河など観光スポットめぐりへの接続、市民が誇る景観の良いスポットへ呼び込む取り組みなどが議会でも市民の間でも議論があると予見されることから、視察の効果を発揮したいと考える。

また、エルフィンロードとは別に計画されるものの、連携させ整備している広場整備（学習の森、水辺の広場）のバイオマストイレや園路整備は、市野谷の森公園整備事業や利根運河のトイレ整備などに活かせる点もあった。

その他にも、観光誘致や移住誘致の取り組みでは、20本のユーチューブビデオが作成され、出演もキャッチコピーも内容も市職員が力を発揮し（映像の未事業者）、700万円を200万円で抑えたとの話は地元愛にあふれている視点にあふれていた。

議会だよりでは、予算決算委員会での質疑内容の概要を科目ごとに掲載していたが、大変分かりやすかった。本市の場合は、討論の羅列で、主義主張の対立にしか見えないかもしれない。市民目線で検証したい。

食と農のふれあいファーム『くるるの杜』では、農作業体験、調理加工体験、農産物直売所、農村レストランを提供し、平日まで多くの来場者を迎えており、本市の農家が希望している要素がたくさん盛り込まれており、参考になった。

● 恵庭市水道事業経営戦略の作成

H26年度決算		恵庭市	流山市
給水人口		68,387	170,268
総給水量(m ³)		6,715,168	16,881,419
普及率		99.30%	98.65%
給水量	年間(m ³)	6,715,168	16,881,419
	1日平均(m ³)	18,398	46,250
	1日最大(m ³)	22,085	43,504
有収水量	年間(m ³)	6,049,703	15,879,000
	1人1日(%)	242	256
有収率		90.10%	94.06%
施設利用率		71.40%	80.40%
正規職員		25人	20人
給水収益(円)		1,332,346,617	2,811,266,980
供給単価(円)		220.23	177.04
給水原価(円)		190.80	180.81

本市でも現在経営戦略作成に向けて事業者を募集しており、作成までの苦労や作成後の市民周知の取り組みなどを学んだ。

恵庭市は水道普及率99%となっており、市街地拡張がないことから、高齢化・人口減少時代での維持更新に力点が置かれている。一方で、恵庭市が加盟している石狩東

部広域水道事業団が人口増を想定した施設整備が過大となり、受水費基本料（4億円→7億5千万円）が大幅に値上げされた経緯から、戦略策定に至った。

本市の場合は、市の5分の1の面積にあたるTX沿線での拡張をしながら、高齢化・人口減少時代での維持更新、耐震化もしなければならず、水道経営の難しさを持っている。同時に、加盟している北千葉浄水場に水を供給する八ッ場ダム建設、導水管拡張など将来的な受水費増を見据えた対策が必要だが、同時に、料金値上げの道具にされかねず、以下の点に注目する必要性を感じた。

①供給単価と給水原価：「供給単価」が「給水原価」を上回っている場合は、給水にかかる費用が水道料金収入により賄われているといえ、1m³の水を給水するのにかかる費用と1m³当たりの水道料金の単価を比較することにより、原価回収ができていくかどうかを把握できる。本市の場合、H31年度までは現受水費が維持されることとなったが、今後、受水費基本料の値上げ、市内拡張事業による投資増、水道料金による投資金額の回収に長時間かかること、節水型の

普及・節水意識の高まりにより 1 人当りの 1 日最大使用量の減少は続くことから、数値の比較、差の拡大に注視が欠かせない。

②投資の正確性：本市の水道事業における基本計画人口は、18 万 2 千人だが、市全体の計画では将来人口推移を変更・拡大したことから 5 千人プラスすることとなる。配水タンクの清掃も含め、人口増は、タンクの増設（1 機→2 機）が必要となる恐れがあり、現在のタンクと同等規模とするのか、サイズダウンを図るのか、また一度は廃止する計画から施設改修に至った東部浄水場の将来像も含めた将来施設像が正確に設定されているのかも注目したい。

③水道管の長寿命化：恵庭市では、ダグタイル鋳鉄管 60 年、塩ビ管 45 年と更新時期を設定しているが、本市の場合、ダグタイル鋳鉄管とハイパーポロエチレン管を使用しており、寿命設定の時期により、更新経費の設定が大きく変わることから、製造メーカーからの聞き取りも含め調査が欠かせない。

④経営の現状：本市の内部留保は約 50 億円、一方で企業残債は約 97 億円となっており、現経営実態では T X 沿線事業の進捗遅延が重荷になっている。開発→住宅整備→申込み納付金→水道の営業収益の拡大となっているが、そうばな頭打ちとなるのにくわえ、既成市街地における高齢化、空き家の増加を考慮すれば、水道審議会、議会の議論、執行部の判断がより重要な役割を果たすと考える。

③専門職員の配置・育成：恵庭市より、より少ない職員数で、多くの市民に水を供給しているが、専門技術の継承継続は欠かせない。目先の経営に惑わされずに対策を求めたい。